

国際文理学部履修規程

制定 平成 23 年 3 月 2 4 日

(趣旨)

第 1 条 この規程は、福岡女子大学学則又はこれに基づく別段の定めによるもののほか、国際文理学部の教育課程及び履修方法について必要な事項を定めるものである。

(授業科目)

第 2 条 授業科目は、学則第 6 条及びその別表第 1 から第 1 6 に定められているとおりとする。

(卒業に必要な単位)

第 3 条 学則第 1 1 条に定める卒業に必要な科目及び単位は、次のとおり修得しなければならない。

授業科目区分		国際教養学科	環境科学科	食・健康学科	
学部 共通 科目	ファーストイヤー・ゼミ	2	2	2	
	学術言語プログラム	15	15	15	
	外国語科目	4	—	—	
	情報活用科目	2	2	2	
	日本文化理解科目	2	2	2	
	語学研修科目	—	—	—	
	体験学習科目	—	—	—	
	共通基盤科目	総合科目	2	2	2
		人文科学	2	4	4
		社会科学	2	4	4
自然科学		6	2	2	
芸術・感性		—	—	—	
健康スポーツ実習	—	—	—		
学部共通専門科目		6	6	6	
学科 科目	学科基本科目	10	10	4	
	専門科目	42	42	40	
	卒業研究	8	8	8	
自由に選択できる科目		13	17	25	
卒業に必要な単位数		124	124	124	

(学部共通科目の履修)

- 第4条 ファーストイヤー・ゼミについては、「ファーストイヤー・ゼミⅠ・Ⅱ」2単位を修得しなければならない。
- 2 学術言語プログラムについては、学術英語プログラムに属する科目15単位を修得しなければならない。ただし、外国人留学生は、学術英語プログラム(一部またはすべて)に代えて、学術日本語プログラムを履修することができる。
  - 3 外国語科目については、国際教養学科においては「中国語」、「韓国語」、「ドイツ語」、「フランス語」または「英語」のいずれかのⅠ～Ⅳを含んで4単位以上修得しなければならない。ただし、日本人学生は、英語Ⅰ～Ⅳを履修しても卒業要件単位には含めない。また、外国人留学生が外国語科目を選択する場合は、母語以外の言語を履修すること。
  - 4 情報活用科目については、「情報インテリジェンス」2単位を修得しなければならない。
  - 5 日本文化理解科目については、2単位以上を修得しなければならない。国際教養学科学科科目の「日本史概論」、「儒教思想史」、「書道Ⅰ(書道芸術)」、「美学美術史」からも選択することができる。
  - 6 共通基盤科目については、総合科目、人文科学、社会科学、自然科学、芸術・感性に属する科目のうちから合計20単位以上を修得しなければならない。ただし、総合科目については2単位以上を、国際教養学科においては人文科学及び社会科学はそれぞれ2単位以上、自然科学は6単位以上を、環境科学科及び食・健康学科においては人文科学及び社会科学はそれぞれ4単位以上、自然科学は2単位以上を修得しなければならない。
  - 7 共通基盤科目については語学研修科目、体験学習科目、健康スポーツ実習からも選択することができる。卒業の単位として認められる。
  - 8 学部共通科目の授業科目、単位数、履修年次及び履修方法は、別表第1に掲げるとおりとする。

(学部共通専門科目の履修)

- 第5条 学部共通専門科目を6単位以上修得しなければならない。
- 2 学部共通専門科目の授業科目、単位数、履修年次及び履修方法は、別表第2に掲げるとおりとする。

(学科科目の履修)

- 第6条 学科基本科目については、国際教養学科及び環境科学科においては10単位以上を、食・健康学科においては4単位以上を修得しなければならない。
- 2 専門科目については、国際教養学科及び環境科学科においては42単位以上を、食・健康学科においては40単位以上を修得しなければならない。
    - (1) 国際教養学科においては、2年次後期に履修する主要な専門科目群(以下、「履修コース」という。)を一つ選択しなければならない。国際教養学科には履修コースとして、

日本語文化履修コース、欧米言語文化履修コース、東アジア地域研究履修コース、国際関係履修コース、国際経済・マネジメント履修コースがあり、次の各号に掲げる履修コースが指定する科目を32単位以上修得しなければならない。

- ア 日本語文化履修コースは「日本語文化科目」に属する科目。ただし、「日本文化の科学的解析」2単位、「日本語文化演習Ⅰ・Ⅱ」4単位を含む。
- イ 欧米言語文化履修コースは「欧米言語文化科目」に属する科目。ただし、「科学と文学」2単位、「欧米言語文化演習Ⅰ・Ⅱ」4単位を含む。
- ウ 東アジア地域研究履修コースは「東アジア地域研究科目」、「国際関係科目」、「国際経済・マネジメント科目」に属する科目。ただし、「東アジア地域研究科目」に属する科目から「東アジアの環境」2単位、「東アジア地域研究演習Ⅰ・Ⅱ」4単位を含み28単位以上を修得すること。
- エ 国際関係履修コースは「国際関係科目」に属する科目。ただし、「国際紛争と数理学」2単位、「国際関係演習Ⅰ・Ⅱ」4単位を含む。
- オ 国際経済・マネジメント履修コースは「国際経済・マネジメント科目」に属する科目。ただし、「環境ビジネス」2単位、「国際経済・マネジメント演習Ⅰ・Ⅱ」4単位を含む。

(2) 環境科学科においては、環境物質履修コース、環境生命履修コース、環境生活履修コース、国際環境政策履修コースの中から一つを選択し、次の各号に掲げる履修コースの科目から選択した履修コースの科目を28単位以上修得しなければならない。また、選択した履修コース以外の3つの履修コースの科目からそれぞれ4単位以上修得するとともに、「関連科目」に属する科目から2単位以上修得しなければならない。

- ア 環境物質履修コースは「環境物質科目」に属する科目。ただし、「有機化学」2単位、「基礎分析化学」2単位、「無機化学」2単位、「高分子化学」2単位、「環境分析化学」2単位、「基礎化学実験」1単位、「環境物質基礎実験」1単位、「環境物質論および実習Ⅰ・Ⅱ」4単位を含む。
- イ 環境生命履修コースは「環境生命科目」に属する科目。ただし、「遺伝子の生物学」2単位、「生命の分子的基盤」2単位、「生体の機能学」2単位、「細胞の生物学」2単位、「生命科学基礎実験」1単位、「発生生物学実験」1単位、「動物生理学実験」1単位、「生態学実験」1単位、「環境生命論および実習Ⅰ・Ⅱ」4単位を含む。
- ウ 環境生活履修コースは「環境生活科目」に属する科目。ただし、「エコライフスタイル学」2単位、「循環・廃棄物管理」2単位、「内空間環境工学」2単位、「環境生活学」2単位、「環境衛生学」2単位、「生活環境デザイン」2単位、「環境生活論および実習Ⅰ・Ⅱ」4単位を含む。
- エ 国際環境政策履修コースは「国際環境政策科目」に属する科目。ただし、「環境法Ⅰ」2単位、「地域環境政策論」2単位、「国際環境政策論」2単位、「環境統計学」2単位、「環境経済学」2単位、「環境会計論」2単位、「国際環境政策論および実習Ⅰ・

Ⅱ」4単位を含む。

- 3 卒業研究については、8単位を修得しなければならない。
- 4 各学科（国際教養学科及び環境科学科においては各履修コース）において履修すべき学科科目の授業科目、単位数、必修・選択・自由の別、履修年次及び履修方法は、別表第3（国際教養学科）、別表第4（環境科学科）及び別表第5（食・健康学科）に定めるとおりとする。

（自由に選択できる科目の履修）

- 第7条 卒業に必要な単位のうち、国際教養学科においては13単位、環境科学科においては17単位、食・健康学科においては25単位については、学部共通科目、学部共通専門科目、他学科を含む学科科目（国際教養学科及び環境科学科においては、食・健康学科が指定する科目を除く）から自由に選択して履修することができる。また、履修した科目は、第8条に記載した副専攻の認定に必要な科目とすることができる。
- 2 前項に規定する食・健康学科が指定する科目は、第9条に規定する科目とする。

（副専攻）

- 第8条 学生が他学科の授業科目等を副専攻科目として、「副専攻の認定に関する規則」にもとづき履修した場合、その学習成果を「副専攻」として認定する。

（教育職員免許状）

- 第9条 教育職員免許状の取得に必要な科目とその履修方法に関する規程は、別にこれを定める。

（栄養士免許状及び管理栄養士国家試験受験資格）

- 第10条 栄養士免許状及び管理栄養士国家試験受験資格の取得に必要な科目とその履修方法に関する規程は、別にこれを定める

（食品衛生監視員及び食品衛生管理者の任用資格）

- 第11条 食品衛生監視員及び食品衛生管理者の任用資格の取得に必要な科目とその履修方法に関する規程は、別にこれを定める。

（履修手続）

- 第12条 授業科目を履修するためには、定められた期日までに履修登録を行わなければならない。登録のない科目については受講しても単位の認定は行わない。
- 2 履修登録は、各学期の授業開始の日から14日以内に教務システムの履修登録メニューより行う。

- 3 同一時限に開講されている科目については、2科目以上の重複履修は認められない。

(履修制限)

第13条 1年次から4年次までの各年次において、履修制限を設ける。

- 2 履修できる単位数は、各年次45単位までとする。
- 3 学則別表第15に規定する「教職に関する専門科目」の修得単位は前項に定める履修制限単位に含めない。
- 4 教授会が認めた場合には前2項に掲げる履修制限単位を超えて履修することができる。

(定期試験)

第14条 授業科目を履修した者については、学則第15条に基づいて、各学期末に期間を定めて定期試験(筆記、口述、論文等)を行い、学修の成果を評価する。ただし、学期の途中で完結する授業科目については、臨時にこれを行うことがある。

- 2 定期試験において不正行為を行った者は、学則第33条に基づくけん責を受け、当該科目だけでなくその学期の全履修科目の単位が無効となる。

(追試験)

第15条 病気その他正当な理由により定期試験を受けることができなかった者は、追試験を受けることができる。

- 2 追試験を希望する者は、定期試験を受講できなかった理由を証明する書類(例えば、病気の場合は医師の診断書等)を添えて、当該科目試験終了の日から5日以内に「追試験願」を教務企画班に提出するものとする。
- 3 追試験は、学部長が正当な理由と認めたものに限り、前期は9月25日までに、後期は4年次生については3月2日、1・2・3年次生については3月20日までに行う。

(再試験)

第16条 定期試験に不合格となった者は、当該科目の担当教員の承認を得て、再試験を受けることができる。

- 2 再試験を希望するものは、前期については9月20日、後期については4年次生は2月28日、1・2・3年次生は3月15日までに、「再試験願」を教務企画班に提出するものとする。
- 3 再試験は、前期については9月25日、後期については4年次生は3月2日、1・2・3年次生は3月20日までに行う。

(成績の評価と単位修得の認定)

第17条 学業成績の評価は、原則として定期試験の成績及び平素の成績によって行う。

- 2 学業成績は100点満点で採点し、60点以上を合格とする。合格者には単位が与えられる。
- 3 前項の学業成績は90点以上を「S」、80点以上90点未満を「A」、70点以上80点未満を「B」、60点以上70点未満を「C」、60点未満を「D」の5段階の標語をもって表す。
- 4 追試験による学業成績は、当該学業成績点の8割とする。
- 5 再試験による学業成績は、当該成績の8割が60点以上のものを合格とし、合格の場合の成績は一律「C」とする。
- 6 その学期の実授業時間の3分の2以上出席していない科目については、成績の評価は行わず、単位修得を認めない。
- 7 実験・実習科目の単位は、関連する講義の単位を修得していないと与えられない。
- 8 特に指定された場合を除いて、同一科目を二度履修しても単位は与えられない。

(他大学で修得した単位の認定)

第18条 学則第13条で定める他の大学等で修得した単位の認定は、学部教授会の議を経て学部長が行う。

(成績評定平均値)

第19条 各授業科目の成績評価に対応して評点（グレードポイント。以下「GP」という。）を付与し、1単位当たりの成績評定平均値（グレードポイントアベレージ。以下「GPA」という。）を算出する。

- 2 GPAに関する取扱いについては別に定める。

(卒業研究演習及び卒業論文の履修要件)

第20条 卒業研究演習及び卒業論文を履修するためには、3年以上在学し、次に定める単位を修得しておかなければならない。ただし、国際教養学科及び環境科学科においては、「卒業研究演習」及び「卒業論文」の履修は、履修コースにおいて行うものとする。

- (1) 学部共通科目については、国際教養学科においては「ファーストイヤー・ゼミⅠ・Ⅱ」2単位、学術言語プログラムと外国語科目を合わせて15単位を含む35単位以上、環境科学科においては「ファーストイヤー・ゼミⅠ・Ⅱ」2単位、学術英語プログラム15単位、情報活用科目2単位、日本文化理解科目2単位、共通基盤科目16単位を含む37単位以上、及び食・健康学科においては「ファーストイヤー・ゼミⅠ・Ⅱ」2単位、学術英語プログラム15単位、情報活用科目2単位、日本文化理解科目2単位、共通基盤科目18単位を含む39単位以上。
- (2) 学部共通専門科目については、4単位以上。
- (3) 学科科目については、次の各号のとおりとする。

- ア 国際教養学科においては30単位以上。ただし、第6条第4項に規定する履修コースで指定する科目からその「演習」に属する科目4単位を含めて20単位以上修得すること。
  - イ 環境科学科においては、学科基本科目10単位、専門科目32単位以上。ただし、第6条第2項(2)に規定する選択した履修コースの必修科目12単位以上を含めて24単位以上修得すること。
  - ウ 食・健康学科においては、学科基本科目4単位、「食・健康科学基礎演習」、「食・健康科学総合演習」2単位および専門科目34単位を含む36単位以上。
- (4) 上記の(1)、(2)、(3)を含めた総修得単位については、国際教養学科においては90単位以上、環境科学科においては100単位以上、食・健康学科においては112単位以上。
- 2 卒業研究演習及び卒業論文履修資格の有無の決定は教授会の議を経て学部長が認定する。
  - 3 前第1項の規定にかかわらず、海外留学等によりやむを得ないと認められる場合には、教授会の議を経て履修を認める場合がある。

#### (卒業研究演習及び卒業論文)

- 第21条 卒業研究演習及び卒業論文は、原則として学生が所属学科の専任教員の卒業研究の科目を選択して行うものとする。
- 2 卒業研究の成果は、これをまとめて卒業論文として提出し、審査を受ける。
  - 3 卒業論文の様式及び卒業論文提出の期限については各学科において別に定める。
  - 4 卒業研究については、学科ごとに別に定める方法により卒業研究の審査を実施し、教員で構成された各学科の卒業研究判定会議において2月末日までに可否を決定する。

#### (卒業の延期)

- 第22条 病気その他の正当な事由で卒業研究の審査ができなかった者で、教授会において認められた場合は、同年3月20日までに卒業研究の審査に合格したときは、同年3月31日付卒業とする。
- 2 卒業研究の審査で不合格となった者が、同年8月31日までに卒業研究の審査に合格したときは、同年9月30日付卒業とする。
  - 3 卒業研究に関する科目以外の単位不足のため4年次に卒業できなかった者が、卒業に必要な所定単位を前期終了時まで満たしたときは、同年9月30日付卒業とする。

#### 附則

この規程は平成23年度入学者から適用する。

別表第1 国際文理学部における学部共通科目とその履修方法(その1)

科目区分		授業科目名と単位数		履修学年	必修選択自由の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)	
ファーストイヤー・ゼミ		ファーストイヤー・ゼミⅠ	1	1前	必修	2単位	
		ファーストイヤー・ゼミⅡ	1	1後	必修		
学術言語プログラム	学術英語プログラム(AEP)	学術英語コミュニケーションⅠ	1	1前	必修	15単位	15単位必修 ※外国人留学生は、学術英語プログラム(一部またはすべて)に代えて、学術日本語プログラムを履修することができる。
		学術英語コミュニケーションⅡ	1	1前	必修		
		学術英語コミュニケーションⅢ	1	1後	必修		
		学術英語コミュニケーションⅣ	1	2前	必修		
		学術英語リスニングⅠ	1	1前	必修		
		学術英語リスニングⅡ	1	1後	必修		
		学術英語リーディングⅠ	1	1前	必修		
		学術英語リーディングⅡ	1	1前	必修		
		学術英語リーディングⅢ	1	1後	必修		
		学術英語リーディングⅣ	1	1後	必修		
		学術英語リーディングⅤ	1	2前	必修		
		学術英語ライティングⅠ	1	1前	必修		
		学術英語ライティングⅡ	1	1後	必修		
		学術英語ライティングⅢ	1	1後	必修		
	学術英語ライティングⅣ	1	2前	必修			
	学術日本語プログラム(AJP)	学術日本語リーディングⅠ	1	1前	自由	15単位	
		学術日本語リーディングⅡ	1	1後	自由		
		学術日本語リーディングⅢ	1	2前	自由		
		学術日本語ライティングⅠ	1	1前	自由		
		学術日本語ライティングⅡ	1	1前	自由		
		学術日本語ライティングⅢ	1	1後	自由		
		学術日本語ライティングⅣ	1	1後	自由		
		学術日本語ライティングⅤ	1	2前	自由		
		学術日本語リスニングⅠ	1	1前	自由		
		学術日本語リスニングⅡ	1	1後	自由		
		学術日本語コミュニケーションⅠ	1	1前	自由		
学術日本語コミュニケーションⅡ		1	1後	自由			
学術日本語コミュニケーションⅢ	1	2前	自由				
学術日本語日本事情Ⅰ	1	1前	自由				
学術日本語日本事情Ⅱ	1	1後	自由				
アドバンスト・イングリッシュ	英語上級Ⅰ	1	2・3・4後	選択	※海外留学を希望する場合は、履修することが望ましい。		
	英語上級Ⅱ	1	2・3・4後	選択			
	英語上級Ⅲ	1	2・3・4後	選択			



別表第1 国際文理学部における学部共通科目とその履修方法（その2）

科目区分	授業科目名と単位数	履修学年	必修選択自由の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)	
外国語科目	中国語Ⅰ	1	1前	選択	国際教養学科は4単位以上 ただし、上記の単位数にはいずれか1つの言語のⅠからⅣを必ず含んでいなければならない。  ※日本人学生は、英語Ⅰ～Ⅳを履修しても卒業要件単位に含めない。  ※外国人留学生が外国語科目を選択する場合は、母語以外の言語を履修すること。  ※国際教養学科で東アジア地域研究履修コースや欧米言語文化履修コースを希望する場合は、当該国・地域の言語を履修することが望ましい。
	中国語Ⅱ	1	1前	選択	
	中国語Ⅲ	1	1後	選択	
	中国語Ⅳ	1	1後	選択	
	中国語Ⅴ	1	2前	選択	
	中国語Ⅵ	1	2後	選択	
	韓国語Ⅰ	1	1前	選択	
	韓国語Ⅱ	1	1前	選択	
	韓国語Ⅲ	1	1後	選択	
	韓国語Ⅳ	1	1後	選択	
	韓国語Ⅴ	1	2前	選択	
	韓国語Ⅵ	1	2後	選択	
	ドイツ語Ⅰ	1	1前	選択	
	ドイツ語Ⅱ	1	1前	選択	
	ドイツ語Ⅲ	1	1後	選択	
	ドイツ語Ⅳ	1	1後	選択	
	ドイツ語Ⅴ	1	2前	選択	
	ドイツ語Ⅵ	1	2後	選択	
	フランス語Ⅰ	1	1前	選択	
	フランス語Ⅱ	1	1前	選択	
	フランス語Ⅲ	1	1後	選択	
	フランス語Ⅳ	1	1後	選択	
	フランス語Ⅴ	1	2前	選択	
	フランス語Ⅵ	1	2後	選択	
英語Ⅰ	1	1前	選択		
英語Ⅱ	1	1前	選択		
英語Ⅲ	1	1後	選択		
英語Ⅳ	1	1後	選択		
情報活用科目	情報インテリジェンス	2	1前・後	必修	2単位以上
	情報リテラシー	2	1前	選択	
日本文化理解科目	日本の伝統文化	2	1前	選択	2単位以上  ※国際教養学科開講科目の「日本史概論」、「儒教思想史」、「書道Ⅰ（書道芸術）」、「美学美術史」からも選択することができる。
	現代日本文化	2	1前	選択	
	福岡の文化と社会	2	1後	選択	
	日本女性文化	2	1後	選択	
語学研修科目	海外語学研修	1	1・2・3通	選択	
体験学習科目	フィールドスタディ	2	1通	選択	
	国際インターンシップ	2	1・2・3・4通	選択	
	フィールドワーク	2	1・2・3・4通	選択	
	サービスラーニング	2	1・2・3・4通	選択	

別表第1 国際文理学部における学部共通科目とその履修方法（その3）

科目区分		授業科目名と単位数		履修学年	必修選択自由の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)	
共通基盤科目	総合科目	グローバリズムと多様性社会	2	1・2前	選択	2単位以上	20 単位 以上
		地球環境と人類の未来	2	1・2前	選択		
		現代社会における生命と健康	2	1・2後	選択		
	人文科学	国際文化論	2	1・2・3・4前	選択	国際教養学科は 2単位以上 環境科学科、食・健康学科は 4単位以上	
		ジェンダー	2	1・2・3・4前	選択		
		日本の言語と世界	2	1・2・3・4前	選択		
		欧米言語文化概論	2	1・2・3・4前	選択		
		言語とコミュニケーション	2	1・2・3・4後	選択		
		歴史と文化	2	1・2・3・4後	選択		
		人間の思索	2	1・2・3・4前	選択		
		宗教学	2	1・2・3・4後	選択		
	社会科学	ジェンダーと法	2	1・2・3・4後	選択	国際教養学科は 2単位以上 環境科学科、食・健康学科は 4単位以上	
		現代社会と法	2	1・2・3・4前	選択		
		日本国憲法	2	2・3・4前	選択		
		現代日本社会論	2	1・2・3・4前	選択		
		今日の東アジア社会	2	1・2・3・4前	選択		
		国際関係の成り立ち	2	1・2・3・4後	選択		
		国際経済のしくみ	2	1・2・3・4前	選択		
		組織運営のしくみ	2	1・2・3・4後	選択		
		情報と社会	2	1・2・3・4後	選択		
自然科学	持続可能社会の設計	2	1・2・3・4前	選択	国際教養学科は 6単位以上 環境科学科、食・健康学科は 2単位以上		
	人をめぐる生命科学	2	1・2・3・4前	選択			
	国際社会における食の安全・安心	2	1・2・3・4前	選択			
	物質と環境	2	1・2・3・4後	選択			
	物理学と現代社会	2	1・2・3・4後	選択			
	数理学と現代社会	2	1・2・3・4後	選択			
芸術・感性	科学論	2	1・2・3・4後	選択			
	美術表現	2	1・2・3・4前	選択			
	造形表現	2	1・2・3・4後	選択			
	音楽表現Ⅰ	2	1・2・3・4前	選択			
健康スポーツ実習	音楽表現Ⅱ	2	1・2・3・4後	選択			
	健康スポーツ実習Ⅰ	1	1前	選択			
	健康スポーツ実習Ⅱ	1	1後	選択			

別表第2 国際文理学部における学部共通専門科目とその履修方法

科目区分	授業科目名と単位数		履修学年	必修選択自由の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)
学部共通専門科目	異文化理解	2	2・3・4前	選択	6単位以上
	国際社会とジェンダー	2	3後	選択	
	国際経済学	2	2後	選択	
	生活と環境	2	2後	選択	
	食料経済学	2	2後	選択	
	食健康論	2	3前	選択	
	社会調査法	2	2・3前	選択	
	フィールド実践・研究推進論 I	2	1・2・3・4前	選択	
	フィールド実践・研究推進論 II	2	1・2・3・4後	選択	

別表第3 国際教養学科の学科科目とその履修方法 (その1)

科目区分	授業科目名と単位数		履修学年	必修選択自由の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)	
学科基本科目	文化・歴史	日本文学入門	2	1後	選択	10単位以上
		欧米文学入門	2	1後	選択	
		英語学入門	2	2前	選択	
		哲学入門	2	1後	選択	
		歴史学入門	2	2前	選択	
		東アジア地域研究入門	2	1後	選択	
	社会システム	法学入門	2	1・2前	選択	
		政治学入門	2	1・2後	選択	
		経済学入門	2	1・2前	選択	
		経営学入門	2	1・2後	選択	
		国際関係入門	2	1・2前	選択	
		情報社会入門	2	1・2前	選択	
		基礎数学	2	1前	選択	
		基礎統計学	2	1後	選択	
		応用統計学	2	2前	選択	

別表第3 国際教養学科の学科科目とその履修方法（その2）

科目区分		授業科目名と単位数	履修学年	必修選択 自由の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)		
専門科目	日本語文化科目	概論・歴史・文化	日本史概論	2	1前	選択	日本語文化履修コースについては、「日本語文化科目」に属する科目のうち、「日本文化の科学的解析」2単位、「日本語文化演習Ⅰ・Ⅱ」4単位を含み合計32単位以上を修得すること。
		日本外交文化史Ⅰ	2	2前	選択		
		日本外交文化史Ⅱ	2	2後	選択		
		儒教思想史	2	1後	選択		
		日本伝統芸能	2	2前	選択		
		奈良時代の文化と文学	2	2前	選択		
		平安・鎌倉時代の文化と文学	2	2後	選択		
		江戸時代の文化と文学	2	2後	選択		
		明治・大正時代の文化と文学	2	2前	選択		
		書道Ⅰ(書道芸術)	2	1前	選択		
		書道Ⅱ(書道実技)	2	1後	選択		
		美学美術史	2	1・2後	選択		
		日本文学史	2	2前	選択		
		国語表現(音声・文法・表記)	2	2前	選択		
		和漢比較文学	2	1後	選択		
		近・現代日本文学の英訳研究	2	3後	選択		
		中国古典文学Ⅰ	2	2前	選択		
		中国古典文学Ⅱ	2	2後	選択		
		日本語文化講読	2	2後	選択		
		日本語文化文献講読B(かな)	2	2前	選択		
	日本語文化文献講読A(漢文)	2	2後	選択			
	日本文化の科学的解析	2	2・3前	必・選			
	日本文化史講義	2	3後	選択			
	文学・語学	漢文学講義	2	3・4前	選択		
		上代日本文学講義	2	3・4後	選択		
		中古日本文学講義Ⅰ	2	3前	選択		
		中古日本文学講義Ⅱ	2	3後	選択		
		中世日本文学講義Ⅰ	2	3前	選択		
		中世日本文学講義Ⅱ	2	3後	選択		
		近世日本文学講義Ⅰ	2	3前	選択		
		近世日本文学講義Ⅱ	2	3後	選択		
		近代日本文学講義	2	3前	選択		
		現代日本文学講義	2	3後	選択		
漢文学実践研究		2	4前	選択			
古典文学実践研究		2	4前	選択			
演習		日本語音韻論	2	3前	選択		
	日本語表記論	2	3前	選択			
	日本語文法論	2	3後	選択			
	国語学実践研究	2	4前	選択			
	日本語教育概論	2	2前	選択			
	日本語教授法Ⅰ	2	2後	選択			
	日本語教授法Ⅱ	2	3前	選択			
	日本語教育授業研究	2	3・4後	選択			
	日本語文化演習Ⅰ	2	3前	必・選			
	日本語文化演習Ⅱ	2	3後	必・選			

別表第3 国際教養学科の学科科目とその履修方法(その3)

科目区分		授業科目名と単位数		履修学年	必修選択 自由の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)	
専門科目	欧米言語文化科目	欧米言語文化概論	哲学概論	2	2前	選択	欧米言語文化履修コースについては、「欧米言語文化科目」に属する科目のうち、「欧米言語文化概論」科目から4単位、「英米の文化と文学」科目から2単位、「英語学」科目から2単位、「英語コミュニケーション」科目から4単位、「欧米文化論」科目から「科学と文学」を含んで4単位、「欧米言語文化文献講読」科目から2単位、「欧米言語文化演習Ⅰ・Ⅱ」4単位を含み合計32単位以上を修得すること。
			欧米史概論	2	2後	選択	
			英文学史	2	2前	選択	
			米文学史	2	2前	選択	
			ドイツ言語文化概論	2	2後	選択	
			フランス言語文化概論	2	2後	選択	
		英米の文化と文学	中世イギリスの文化と文学	2	3前	選択	
			近・現代イギリスの文化と文学Ⅰ	2	3前	選択	
			近・現代イギリスの文化と文学Ⅱ	2	3後	選択	
			近・現代アメリカの文化と文学Ⅰ	2	2前	選択	
			近・現代アメリカの文化と文学Ⅱ	2	3前	選択	
		英語学	ポストモダン英語圏の文化と文学	2	2後	選択	
			英語音声学	2	2後	選択	
			英語文法論	2	3前	選択	
			英語の歴史	2	2後	選択	
			英語文化論	2	2後	選択	
		英語コミュニケーション	英語とジェンダー	2	3後	選択	
			英語コミュニケーションⅠ	2	2後	選択	
			英語コミュニケーションⅡ	2	3前	選択	
			英語通訳の理論と実践	2	3後	選択	
			英語文章表現演習Ⅰ	2	2後	選択	
			英語文章表現演習Ⅱ	2	3前	選択	
		欧米文化論	英語翻訳の理論と実践	2	4前	選択	
欧米文化理論	2		3後	選択			
科学と文学	2		3後	必・選			
欧米文学と女性表象	2		3後	選択			
欧米言語文化文献講読	欧米文学と映像メディア	2	3前	選択			
	英米言語文化文献講読Ⅰ	2	3前	選択			
	英米言語文化文献講読Ⅱ	2	3前	選択			
	英米言語文化文献講読Ⅲ	2	3後	選択			
	英米言語文化文献講読Ⅳ	2	3後	選択			
	ドイツ言語文化文献講読Ⅰ	2	3前	選択			
	ドイツ言語文化文献講読Ⅱ	2	3後	選択			
	フランス言語文化文献講読Ⅰ	2	3前	選択			
フランス言語文化文献講読Ⅱ	2	3前	選択				
演習	欧米言語文化演習Ⅰ	2	3前	必・選			
	欧米言語文化演習Ⅱ	2	3後	必・選			

別表第3 国際教養学科の学科科目とその履修方法（その4）

科目区分		授業科目名と単位数		履修学年	必修選択 自由の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)	
専門科目	東アジア地域研究科目	東アジア	東アジア地域関係論	2	3後	選択	東アジア地域研究履修コースについては、「東アジア地域研究科目」「国際関係科目」「国際経済・マネジメント科目」に属する科目から32単位以上を修得すること。ただし「東アジア地域研究科目」に属する科目のうち「東アジアの環境」2単位、「東アジア地域研究演習Ⅰ・Ⅱ」4単位を含み合計28単位以上を修得すること。  ※中国または韓国を中心に「演習」や「卒業研究」をする場合には、「中国」または「韓国」の科目区分に属する科目及び「中国語・韓国語」に属する科目から選択する国・地域の言語を履修することが望ましい。
			東アジアの歴史	2	2前	選択	
			女性たちとアジア	2	2後	選択	
			アジアの現代文化	2	2後	選択	
			東アジアの法と社会	2	2後	選択	
			東アジアの政治と社会	2	3前	選択	
			東アジア経済論	2	3前	選択	
			東アジアの環境	2	2後	必・選	
		中国	中国近現代史	2	2後	選択	
			現代中国の文化	2	2前	選択	
			中国社会学論	2	2後	選択	
			中国経済論	2	3前	選択	
		韓国	朝鮮近現代史	2	2前	選択	
			現代韓国の文化	2	2前	選択	
			韓国社会学論	2	2後	選択	
			韓国経済論	2	3前	選択	
		中国語・韓国語	時事中国語講読	2	3後	選択	
			時事韓国語講読	2	3後	選択	
			中国語演習Ⅰ	2	3前	選択	
			中国語演習Ⅱ	2	3後	選択	
韓国語演習Ⅰ	2		3前	選択			
韓国語演習Ⅱ	2		3後	選択			
演習	東アジア地域研究演習Ⅰ	2	3前	必・選			
	東アジア地域研究演習Ⅱ	2	3後	必・選			

別表第3 国際教養学科の学科科目とその履修方法（その5）

科目区分		授業科目名と単位数		履修学年	必修選択 自由の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)		
専門科目	国際関係科目	国際開発・国際協力	国際関係論	2	2前	選択	国際関係履修コースについては、「国際関係科目」に属する科目のうち、「国際紛争と数理学」2単位、「国際関係演習Ⅰ・Ⅱ」4単位を含み合計32単位以上修得すること。	
			国際開発論	2	2後	選択		
			開発法学	2	2後	選択		
			国際機構法	2	3前	選択		
			国際協力・NPO/NGO論	2	3後	選択		
			コミュニケーション学	2	1・2・3・4前	選択		
			異文化間コミュニケーション学	2	1・2・3後	選択		
			グローバル社会と人の移動	2	3前	選択		
			国際環境政策論	2	3前	選択		
			国際政治	国際法	2	2後		
	国際紛争と数理学	2		2・3後	必・選			
	平和と安全保障	2		3前	選択			
	国際政治史	2		3前	選択			
	政治思想史	2		3後	選択			
	政治理論	2		3前	選択			
	比較政治学	2		2前	選択			
	現代日本政治	2		3後	選択			
	日本政治史	2		3前	選択			
	アメリカの政治と社会	2		3前	選択			
	演習	国際関係演習Ⅰ	2	3前	必・選			
国際関係演習Ⅱ		2	3後	必・選				

表第3 国際教養学科の学科科目とその履修方法（その6）

科目区分		授業科目名と単位数	履修学年	必修選択 自由の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)		
専門科目	国際経済・マネジメント科目	国際マネジメント	経営学	2	2前	選択	国際経済・マネジメント履修コースについては、「国際経済・マネジメント科目」に属する科目のうち、「環境ビジネス」2単位、「国際経済・マネジメント演習Ⅰ・Ⅱ」4単位を含み合計32単位以上修得すること。
			国際経営学	2	2後	選択	
			会計学	2	2前	選択	
			国際企業会計	2	2後	選択	
			ファイナンス	2	3前	選択	
			日本・アジアの企業経営	2	3後	選択	
			企業戦略	2	2前	選択	
			経営管理論	2	2後	選択	
			人的資源管理	2	3前	選択	
			社会心理学	2	2後	選択	
			行動心理学	2	3前	選択	
			ビジネス英語	2	2前	選択	
			環境ビジネス	2	3前	必・選	
		プロジェクトマネジメント論	2	3前	選択		
		プロジェクトマネジメント演習	2	3後	選択		
		国際経済	ミクロ経済学Ⅰ	2	2前	選択	
			ミクロ経済学Ⅱ	2	2後	選択	
			マクロ経済学Ⅰ	2	2前	選択	
			マクロ経済学Ⅱ	2	2後	選択	
	計量経済学Ⅰ		2	2前	選択		
	計量経済学Ⅱ		2	2後	選択		
	財政学		2	3前	選択		
	金融論		2	3前	選択		
	経済政策		2	3前	選択		
	地域経済		2	3後	選択		
	経済成長	2	3後	選択			
	開発経済学	2	3後	選択			
日本経済	2	3後	選択				
アメリカ経済	2	3後	選択				
EU経済	2	3後	選択				
経済英語	2	2後	選択				
演習	国際経済・マネジメント演習Ⅰ	2	3前	必・選			
	国際経済・マネジメント演習Ⅱ	2	3後	必・選			
卒業研究	卒業研究演習	4	4通	必修	8単位		
	卒業論文	4	4通	必修	卒業研究は各履修コースにおいて行う。		



別表第4 環境科学科の学科科目とその履修方法(その1)

科目区分	科目名	単位数			履修学年	必修選択 自由の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)		
		講義	演習	実験					
学科基本科目	基礎数学	2			1前	必修	10単位必修		
	基礎物理学	2			1前	選択			
	基礎化学	2			1前	必修			
	基礎生命科学	2			1前	必修			
	生態系の生物学	2			1後	選択			
	基礎統計学	2			1後	選択			
	応用統計学	2			2前	選択			
	環境科学概論	2			2前	必修			
	コンピュータサイエンス	2			1前	選択			
	プログラミング	2			2後	選択			
	環境法総論	2			1後	必修			
	経済学入門	2			1・2前	選択			
	環境とジェンダー	2			2後	選択			
専門科目	環境物質科目	基礎物理化学	2			2前	選択	環境物質履修コースについては、「環境物質科目」に属する科目のうち、「有機化学」2単位、「基礎分析化学」2単位、「無機化学」2単位、「高分子化学」2単位、「環境物理学」2単位、「環境材料学」2単位、「環境有機化学」2単位、「環境分析化学」2単位、「大気環境科学」2単位、「土壌環境科学」2単位、「水質環境科学」2単位、「地球環境科学」2単位、「環境機器分析学」2単位、「東アジアの環境」2単位、「基礎物理学実験」1単位、「基礎化学実験」1単位、「有機化学実験」1単位、「高分子化学実験」1単位、「環境物質基礎実験」1単位、「環境分析化学実験」1単位、「機器分析学実験」1単位、「地球環境科学実験」1単位、「基礎物理化学演習」1単位、「応用物理化学演習」1単位、「環境科学演習」1単位、「環境物質論および実習Ⅰ」2単位、「環境物質論および実習Ⅱ」2単位	
		応用物理化学	2			2後	選択		
		有機化学	2			2前	必・選		
		基礎分析化学	2			1後	必・選		
		無機化学	2			2前	必・選		
		高分子化学	2			2後	必・選		
		環境物理学	2			3前	選択		
		環境材料学	2			3前	選択		
		環境有機化学	2			2後	選択		
		環境分析化学	2			2後	必・選		
		大気環境科学	2			3前	選択		
		土壌環境科学	2			3後	選択		
		水質環境科学	2			3前	選択		
		地球環境科学	2			3後	選択		
		環境機器分析学	2			2後	選択		
		東アジアの環境	2			2後	選択		
		基礎物理学実験			1	2前	選択		
		基礎化学実験			1	2前	必・選		
		有機化学実験			1	2後	選択		
		高分子化学実験			1	3前	選択		
		環境物質基礎実験			1	2後	必・選		
		環境分析化学実験			1	3前	選択		
		機器分析学実験			1	3後	選択		
		地球環境科学実験			1	3後	選択		
		基礎物理化学演習		1		2後	選択		
		応用物理化学演習		1		3前	選択		
		環境科学演習		1		2後	選択		
環境物質論および実習Ⅰ	2			3前	必・選				
環境物質論および実習Ⅱ	2			3後	必・選				

別表第4 環境科学科の学科科目とその履修方法(その2)

科目区分	科目名	単位数			履修学年	必修選択 自由の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)	
		講義	演習	実験				
専門科目	環境生命科目	遺伝子の生物学	2			1後	必・選	環境生命履修コースについては、「環境生命科目」に属する科目のうち、「遺伝子の生物学」2単位、「生命の分子基盤」2単位、「生体の機能学」2単位、「細胞の生物学」2単位、「生命科学基礎実験」1単位、「発生生物学実験」1単位、「動物生理学実験」1単位、「生態学実験」1単位、「環境生命論および実習Ⅰ・Ⅱ」4単位を含み合計28単位以上を修得すること。
		生命の分子基盤	2			2前	必・選	
		生体の機能学	2			2前	必・選	
		分子生物学	2			2後	選択	
		遺伝学	2			3前	選択	
		バイオインフォマティクス	2			3後	選択	
		細胞の生物学	2			1後	必・選	
		発生生物学	2			3前	選択	
		系統進化学	2			3後	選択	
		動物生理学	2			2後	選択	
		生物統計学	2			2後	選択	
		環境生理学	2			3前	選択	
		生態学Ⅰ	2			2前	選択	
		生態学Ⅱ	2			3後	選択	
		保全生物学	2			3前	選択	
		環境評価学	2			2後	選択	
		生命科学演習Ⅰ		1		2後	選択	
		生命科学演習Ⅱ		1		3前	選択	
		生命科学演習Ⅲ		1		3前	選択	
		生命科学演習Ⅳ		1		3後	選択	
		生命科学演習Ⅴ		1		3後	選択	
		生命科学基礎実験			1	2前	必・選	
		発生生物学実験			1	3前	必・選	
動物生理学実験			1	3前	必・選			
生態学実験			1	3前	必・選			
環境生理学実験			1	2後	選択			
環境生命論および実習Ⅰ	2			3前	必・選			
環境生命論および実習Ⅱ	2			3後	必・選			

別表第4 環境科学科の学科科目とその履修方法(その3)

科目区分	科目名	単位数			履修学年	必修選択 自由の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)	
		講義	演習	実験				
専門科目	環境生活科目	エコライフスタイル学	2			2前	必・選	環境生活履修コースについては、「環境生活科目」に属する科目のうち、「エコライフスタイル学」2単位、「循環・廃棄物管理」2単位、「内空間環境工学」2単位、「環境生活学」2単位、「環境衛生学」2単位、「生活環境デザイン」2単位、「環境リスク」2単位、「環境生活基礎実験」1単位、「エコ・リサイクル実験」1単位、「環境影響検査法」1単位、「環境生活演習Ⅰ」1単位、「環境生活演習Ⅱ」1単位、「環境生活演習Ⅲ」1単位、「環境生活演習Ⅳ」1単位、「環境生活論および実習Ⅰ」2単位、「環境生活論および実習Ⅱ」2単位を含み合計28単位以上を修得すること。
		化学物質管理	2			2後	選択	
		都市空間デザイン	2			3後	選択	
		循環・廃棄物管理	2			2前	必・選	
		内空間環境工学	2			2前	必・選	
		環境生活学	2			2前	必・選	
		環境人間工学	2			3前	選択	
		環境生活生理学	2			2後	選択	
		環境衛生学	2			2前	必・選	
		生活環境デザイン	2			2後	必・選	
		環境リスク	2			2後	選択	
		環境生活基礎実験			1	2後	選択	
		エコ・リサイクル実験			1	2後	選択	
		環境影響検査法		1		3前	選択	
		環境生活演習Ⅰ		1		3前	選択	
		環境生活演習Ⅱ		1		3前	選択	
		環境生活演習Ⅲ		1		3前	選択	
		環境生活演習Ⅳ		1		3前	選択	
		環境生活論および実習Ⅰ	2			3前	必・選	
		環境生活論および実習Ⅱ	2			3後	必・選	

別表第4 環境科学科の学科科目とその履修方法（その4）

科目区分	科目名	単位数			履修学年	必修選択自由の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)	
		講義	演習	実験				
専門科目 国際環境政策科目	環境法Ⅰ	2			2前	必・選	国際環境政策履修コースについては、「国際環境政策科目」に属する科目のうち、「環境法Ⅰ」2単位、「地域環境政策論」2単位、「国際環境政策論」2単位、「環境統計学」2単位、「環境経済学」2単位、「環境会計論」2単位、「環境経営と環境」2単位、「環境影響論」2単位、「環境マネジメント演習Ⅰ・Ⅱ」4単位を含み、合計28単位以上を修得すること。	
	環境法Ⅱ	2			2後	選択		
	国際機構法	2			3前	選択		
	地域環境政策論	2			1後	必・選		
	国際環境政策論	2			2前	必・選		
	国際協力・NPO/NGO論	2			3後	選択		
	社会環境設計論	2			3前	選択		
	環境統計学	2			3前	必・選		
	環境(負荷)評価	2			3後	選択		
	ミクロ経済学Ⅰ	2			2前	選択		
	環境経済学	2			2後	必・選		
	国際環境経済論	2			3前	選択		
	環境ビジネス	2			3前	選択		
	環境会計論	2			2前	必・選		
	企業経営と環境	2			2後	選択		
	環境影響論	2			3後	選択		
	環境マネジメント演習Ⅰ		1		2前	選択		
	環境マネジメント演習Ⅱ		1		2後	選択		
	環境マネジメント演習Ⅲ		1		3前	選択		
	環境マネジメント特別講義Ⅰ	2			3後	選択		
環境マネジメント特別講義Ⅱ	2			3後	選択			
環境マネジメント特別講義Ⅲ	2			3後	選択			
国際環境政策論および実習Ⅰ	2			3前	必・選			
国際環境政策論および実習Ⅱ	2			3後	必・選			
関連科目	東アジアの歴史	2			2前	選択	2単位以上	
	国際開発論	2			2後	選択		
	アジアの現代文化	2			2後	選択		
	東アジアの法と社会	2			2後	選択		
卒業研究	卒業研究演習		4		4通	必修	8単位	卒業研究は各履修コースにおいて行う。
	卒業論文			4	4通	必修		

○実験・実習の単位は、その関連講義の単位を修得した者のみに認める。  
 なお、関連する講義―実験・実習一覧を別表第4の2に示す。

別表第4の2 環境科学科の実験実習等と関連する講義科目一覧

実験実習等科目名	対応する講義科目名
基礎物理学実験	基礎物理学
基礎化学実験	基礎化学
有機化学実験	有機化学
高分子化学実験	高分子化学
環境物質基礎実験	基礎分析化学
環境分析化学実験	環境分析化学
機器分析学実験	環境機器分析学
地球環境科学実験	地球環境科学
基礎物理化学演習	基礎物理化学
応用物理化学演習	応用物理化学
生命科学基礎実験	基礎生命科学
発生生物学実験	発生生物学
動物生理学実験	動物生理学
生態学実験	生態学 I
環境影響検査法	環境生活学生理学
環境生活基礎実験	内空間環境工学
エコ・リサイクル実験	エコライフスタイル学

授業の開講の学年と時期は授業時間割をみること。

別表第5 食・健康学科の学科科目とその履修方法（その1）

科目区分	授業科目名と単位数	単位数			履修学年	必修選択 自由の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)	
		講義	演習	実験 実習				
学科基本科目	調理学	2			1前	選択	4単位以上	
	調理学基礎実習			1	1後	選択		
	生化学Ⅰ	2			1前	選択		
	生化学Ⅱ	2			1後	選択		
	基礎実験			1	1前	選択		
	基礎化学	2			1前	選択		
	化学	2			1前	選択		
	基礎生命科学	2			1前	選択		
	基礎数学	2			1前	選択		
	基礎統計学	2			1後	選択		
	応用統計学	2			2前	選択		
	英文講読	2			3前	選択		
専門科目	グローバル社会の食と健康	保健医療福祉論	2			1前	選択	「専門科目」については、合計38単位以上修得すること。
		実践栄養活動論	2			1前	選択	
		国際食文化論	2			1前	選択	
		栄養マネジメント論	2			2後	選択	
		公衆栄養学	2			3前	選択	
		公衆栄養学実習			1	3前	選択	
		公衆栄養学臨地実習			1	3後	選択	
		国際健康栄養科学	2			2前	選択	
		実践疫学	2			2後	選択	
		地域ブランド論	2			3前	選択	
		食物危機管理論	2			3後	選択	
		公衆衛生学	2			2前	選択	
	公衆衛生学実習			1	3後	選択		
	人間の体と心の健康	生化学実験			1	1後	選択	
		基礎栄養学実験			1	2前	選択	
		人間構造機能学Ⅰ	2			1後	選択	
		人間構造機能学Ⅱ	2			2前	選択	
		人間構造機能学実験Ⅰ			1	2前	選択	
		人間構造機能学実験Ⅱ			1	2後	選択	
		臨床医学論	2			2後	選択	
栄養生理学		2			2後	選択		
栄養生理学実験			1	2後	選択			
分子生物学	2			2後	選択			

別表第5 食・健康学科の学科科目とその履修方法（その2）

科目区分	授業科目名と単位数	単位数			履修学年	必修選択自由の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)	
		講義	演習	実験 実習				
専門科目	保健・医療・福祉・介護における食と健康	基礎栄養学	2			1後	選択	
		生物物理・統計論	2			1後	選択	
		食行動科学理論	2			1後	選択	
		食事摂取基準論	2			2前	選択	
		栄養教育論	2			2前	選択	
		栄養教育論実習			1	2後	選択	
		ライフステージ栄養学	2			2後	選択	
		ライフステージ栄養学実習			1	2後	選択	
		栄養カウンセリング論	2			2後	選択	
		スポーツ栄養学	2			3後	選択	
		臨床栄養管理学	2			2後	選択	
		臨床栄養管理学実習			1	3前	選択	
		研究解析論	2			3後	選択	
		臨床薬理学	2			3前	選択	
		臨地実習事前・事後指導			1	3通	選択	
		食事療法学	2			3前	選択	
		食事療法学実習			1	3後	選択	
		病態栄養学	2			3前	選択	
栄養治療学	2			3後	選択			
臨床栄養アセスメント	2			3前	選択			
臨床栄養臨地実習			2	3後	選択			

別表第5 食・健康学科の学科科目とその履修方法（その3）

科目区分	授業科目名と単位数	単位数			履修学年	必修選択自由の別	履修方法 (卒業に必要な単位数)	
		講義	演習	実験 実習				
専門科目	食の安全・安心と機能	微生物学	2			1後	選択	
		微生物学実験			1	2前	選択	
		食品安全学	2			2前	選択	
		食品安全学実験			1	2後	選択	
		バイオテクノロジー論	2			3後	選択	
		食品機能学	2			1後	選択	
		食品機能学実験			1	2前	選択	
		食品加工・貯蔵学	2			2後	選択	
		食品分析化学	2			3前	選択	
		食品分析化学実験			1	3前	選択	
		給食経営管理論Ⅰ	2			2前	選択	
		給食経営管理論Ⅱ	2			2後	選択	
		給食経営管理実習Ⅰ			1	3前	選択	
		給食経営管理実習Ⅱ			1	3前	選択	
		給食の運営(校外実習)			1	3前	選択	
		調理学応用実習			1	2前	選択	
		調理科学	2			2後	選択	
		調理科学実験			1	3前	選択	
	食経営管理論	2			3後	選択		
	演習科目	食・健康科学基礎演習		1		3後	必修	2単位
食・健康科学総合演習			1		3後	必修		
卒業研究	卒業研究演習		4		4通	必修	8単位	
	卒業論文			4	4通	必修		

○実験・実習の単位は、その関連講義の単位を修得した者のみに認める。

なお、関連する講義―実験・実習一覧を別表第5の2に示す。

別表第5の2 食・健康学科の実験実習等と関連する講義科目-

実験実習等科目名	対応する講義科目名
調理学基礎実習	調理学
公衆栄養学実習	実践栄養活動論、公衆栄養学
公衆栄養学臨地実習	実践栄養活動論、公衆栄養学
公衆衛生学実習	公衆衛生学
生化学実験	生化学 I
基礎栄養学実験	基礎栄養学
人間構造機能学実験 I	人間構造機能学 I
人間構造機能学実験 II	生化学 I・II および人間構造機能学 II
栄養生理学実験	栄養生理学
栄養教育論実習	食行動科学理論、栄養教育論、栄養カウンセリング論
ライフステージ栄養学実習	食事摂取基準論、栄養マネジメント論、ライフステージ栄養学
臨床栄養管理学実習	臨床栄養管理学
食事療法学実習	食事摂取基準論、栄養マネジメント論、食事療法学
臨床栄養臨地実習	臨床栄養管理学
微生物学実験	微生物学
食品安全学実験	食品安全学
食品機能学実験	食品機能学
食品分析化学実験	食品分析化学
給食経営管理実習 I	給食経営管理論 I・II
給食経営管理実習 II	給食経営管理論 I・II
給食の運営(校外実習)	給食経営管理論 I・II
調理学応用実習	調理学
調理科学実験	調理科学

各授業の開講の学年と時期は授業時間割をみること。